

◆「第77回(2025年度)日本放送協会放送文化賞」 は、次の方々に贈呈することに決定したと発表。

相澤 清晴(あいざわ きよはる)氏(東京大学名誉教授)

桂 文珍(かつら ぶんちん)氏(落語家)

里見浩太郎(さとみ こうたろう)氏(俳優、歌手)

玉木幸則(たまき ゆきのり)氏((一社)兵庫県相談支援ネットワーク代表理事 ほか)

野沢雅子(のざわ まさこ)氏(声優)

松任谷 由実(まつとうや ゆみ)氏(シンガーソングライター)
(五十音順)

この賞は、1949(昭和24)年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、これまでの受賞者は今回の6組を合わせて506組となります。

受賞者の選考は、NHK副会長が委員長を務め、池端俊策氏(脚本家)、伊東晋氏(東京理科大学名誉教授)、大日向雅美氏(恵泉女子学園大学学長)、鳥飼玖美子氏(立教大学名誉教授)、増田明美氏(スポーツジャーナリスト)、毛利衛氏(宇宙飛行士・日本科学未来館名誉館長)と、NHKの理事5人の計12人を委員とする選考委員会で行われ、これを受けて会長が決定しました。

3月13日(金)にNHK放送センター(東京・渋谷)、放送記念日記念式典にて執り行われ、受賞者には佐藤忠良氏作のブロンズ像「ふたば」と副賞を贈呈された。

〈五十音順〉

相澤 清晴 氏(66) 東京大学名誉教授



長年にわたりカメラのイメージセンサーや映像データの圧縮など、放送技術の幅広い分野で研究開発に取り組んできました。実世界を3次元グラフィックとして取り込む「ポリュメトリックビデオ技術」の礎を築き、この技術はドラマの撮影でも用いられたほか、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)への応用も期待されています。また、NHK放送技術審議会・放送技術研究委員会の委員長を歴任するなど、放送技術の発展に大きく貢献しています。

桂 文珍氏(77) 落語家

上方落語界を代表する落語家として半世紀以上にわたり第一線で



活躍し、古典から創作まで幅広い演目で多くの視聴者に笑いを届けられました。上方落語の魅力を広く国内外へ発信しているほか、卓越した話芸と進行力で演芸番組に限らず、各種情報番組や教養番組への出演を重ねるとともに、連続テレビ小説「風のハルカ」をはじめ数多くのテレビドラマにも出演するなど、幅広いジャンルで放送文化の振興に貢献しています。

里見 浩太郎氏(89) 俳優、歌手



1956年に芸能界入りして以降、時代劇を中心に数多くの作品に出演し、時代劇トップスターとしての地位を確立。2025年に芸歴70年を迎えました。民放の人気作品で長年にわたって主演を務めたほか、NHKでは、5本の大河ドラマに出演し、2025年の「べらぼう～篤重栄華乃夢噺～」でも大きな存在感を示しました。また、歌手としても活動するなど、多方面で放送文化の発展に貢献。いまなお「ミスター時代劇」として多くの視聴者の支持を得ています。

**玉木 幸則氏 (57) (一社) 兵庫県相談支援ネットワーク代表理事
ほか**



障害者相談支援の第一人者として活躍するかたわら、2009年からEテレ「きらっといきる」、「バリバラ」にコメンテーターとしてレギュラー出演。自らの経験や知見を踏まえた平易で的確なコメントとユーモアあふれる語り口で人気を博し、世代や障害の有無を超えて支持されました。メディアと福祉をつなぎ、誰もが「ありのまま」で生きられる社会を目指す姿勢は、多くの視聴者に勇気と気づきを与えるとともに、放送文化の発展に大きく寄与しています。

野沢 雅子氏 (89) 声優

日本初の本格的連続テレビアニメ「鉄腕アトム」から活動を重ね、以降数々の作品で主要キャラクターに命を吹き込み、日本のアニメ文化の礎を築いてきました。NHKでは1996年に始まったEテレの人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」で主人公の友達・ケロちゃん役として30年にわたり出演しているほか、科学番組やラジオ番組への出演や語りなど幅広いジャンルで活躍。その類いまれな表現力で放送文化の普及と質の向上に貢献し続けています。



松任谷 由美氏 (72) シンガーソングライター

デビュー以来、時代を超えて愛される名曲を数多く発表し、日本の音楽シーンをけん引してきました。連続テレビ小説「春よ、来い」をはじめ、数々のドラマの主題歌を担当してきたほか、ドラマやドキュメンタリー番組への楽曲提供や語りを担当。その表現は視聴者の心に深く響き、番組の世界観を豊かに彩ってきました。さらに、音楽番組ではAI技術を取り入れたパフォーマンスに挑戦するなど、多岐にわたる形で日本のポップミュージックと放送文化の発展に寄与しています。



◆朋栄：統合制御ソフトウェア「Buttons」の国内販売を開始



株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、2026年1月21日より、ノルウェー・オスロに本拠地を置く Bitfocus 社（ビットフォーカス）が開発する統合制御ソフトウェア「Buttons（ボタンズ）」の国内販売を開始した。

Buttons は、放送、ライブ制作、配信、AV システム、教育、サイネージなどにおいて、複数メーカーの機器やソフトウェアを一元的に制御するためのソフトウェアベースのコントロールプラットフォーム。従来、個別に操作・管理していた機器やワークフローを統合し、シンプルかつ効率的な運用を実現する。

Buttons は、Bitfocus Companion で培われたノウハウを基に、より大規模・業務用途向けに設計された商用ソリューション。多くのツールが個々のオペレーターによる操作中心のコントロールに焦点を当てている一方で、Buttons は、システム全体の統合的な制御や複雑なワークフロー管理を目的とした包括的なプラットフォームとして位置付けられている。

朋栄では、Buttons の国内販売開始に伴い Elgato 社（エルガト）製の業務用コントローラー「Stream Deck Studio（ストリーム・デック・スタジオ）」の販売も同時に行うとしている。

Buttons と Stream Deck Studio を組み合わせることで、ソフトウェアによる統合制御と、物理コントローラーによる直感的なオペレーションを両立でき、放送局や制作現場における操作性と運用効率を大きく向上させる。

朋栄では、Buttons の国内販売にあわせ、導入検討からシステム設計、設定支援、運用サポートまでをトータルで提供し、放送局や制作現場の効率化・自動化を支援する。

Buttons の主な特長・機能

- ・放送 / 配信 / AV 機器を統合制御するソフトウェアプラットフォーム
- ・複数メーカー / 複数システムを単一インターフェースで管理可能
- ・大規模システムや業務用途を想定した商用ソリューション
- ・柔軟なワークフロー設計と高い拡張性
- ・Bitfocus Companion との親和性を確保しつつ、より上位の統

合制御を実現

- ・ Windows/macOS / サーバー環境での運用に対応



※ Bitfocus Buttons はソフトウェア製品です。

◆朋栄：IP/SDI ハイブリッド時代に向けた、放送設備の統合運用を国内市場へ

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、2026年1月より、放送・メディア業界向けの統合運用プラットフォームとして、Skyline Communications 社（本社：ベルギー）が開発・提供する「DataMiner」の取り扱いを開始いたしました。近年、放送設備の IP 化やクラウド活用の進展により、SDI と IP が混在する運用環境が一般化しています。その一方で、設備構成の複雑化に伴い、監視・運用負荷の増大やヒューマンエラーといった課題が顕在化している。

DataMiner は、マルチベンダー環境に対応した統合運用プラットフォームとして、物理機器、ネットワーク、IP フロー、サービスといった複数レイヤーの情報を一元的に可視化し、効率的な運用を支援します。障害発生時の迅速な状況把握や、運用フローの自動化により、運用品質の向上に貢献するとしている。

「朋栄は、これまで培ってきた放送分野での知見と DataMiner を組み合わせ、IP/SDI 混在環境における統合運用ソリューションを日本市場に向けて提供していきます。放送事業者様に加え、放送外市場も視野に入れた提案を通じて、運用の高度化 / 効率化を支援してまいります。」



◆ソニー：Camera Verify の動画対応を開始

コンテンツの真正性情報を外部共有できる「Camera Verify（カメラベリファイ）」（ベータ版）において、対応フォーマットをこれまでの静止画から動画にも拡張し、報道機関向けに提供を開始した。合わせて、報道機関が自社システムに組み込み可能な「イメージ検証事前チェック SDK（ソフトウェア開発キット）」の動画対応も開始する。

ソニーは、静止画・動画を問わず、コンテンツの真正性検証とその発信のためのサービス拡充を通じて、報道機関が真正性を担保した情報発信を効率的に行えるよう支援する。

Camera Verify の動画対応を開始

「Camera Verify」は、イメージ検証サイトによる検証結果を専用 URL で発行できる機能です。報道機関が自社メディアを通じてコンテンツの真正性を発信できる手段として、この URL を活用できる。Camera Verify の動画対応により、これまで提供してきた静止画に加えて、動画コンテンツの真正性情報も外部共有できるようになった。

【Camera Verify で外部共有できる主な検証結果】

- ・ C2PA 対応を含む電子署名により、カメラによって撮影された静止画および動画であることを検証
- ・ カメラで撮影した時刻と真正性検証結果の表示
- ・ 3D 深度情報の検知により、実在する被写体を撮影したことを検証

2. 「イメージ検証事前チェック SDK（ソフトウェア開発キット）」の動画対応を開始

「イメージ検証事前チェック SDK」は、コンテンツにカメラ署名が付いているかどうかをローカル環境で確認できるソフトウェア開発キット。報道機関は、この SDK を自社のシステムに組み込むことで、既存の業務フローを変更することなく画像および動画コンテンツにカメラ署名が付いているかどうかを確認できるようになる。検証対象コンテンツの仕分けや効率的な処理フローの構築を支援。

真正性カメラソリューション

生成 AI が急速に進化し普及することはクリエイティブな表現に新たな可能性をもたらす一方、生成された画像による影響が懸念されています。虚偽の情報や画像の流布は、報道機関やジャーナリストのみならず、社会全体にも影響を及ぼす。

ソニーはこの課題に対し、静止画および動画コンテンツの真正性をより高度に検証できる仕組みである真正性カメラソリューションを、報道機関をはじめ、報道に関わるフォトジャーナリスト/フォトグラファー/ビデオジャーナリスト/ビデオグラファーに提供している。

意図した画像を容易に生成できる現代社会において、実際に撮影した映像コンテンツの価値が今まで以上に高まることが予期される。



これらの映像コンテンツの信頼性を高めることにより、フォトグラファーの皆様への貢献を目指す。

真正性カメラソリューション

ソニーは、カメラメーカーだからこそ提供できる独自の 3D 深度情報を含むメタデータを用いて、信憑性の高さを守りたいプロフェッショナルを支援し、虚偽の画像による問題に取り組んでいるほか、C2PA (Coalition for Content Provenance and Authenticity) ^{*1} の運営委員会における活動を通じて、画像の編集や加工の来歴に関する現在の業界標準の策定に貢献しています。

ソニーの真正性カメラソリューションは、C2PA フォーマットに則った編集来歴の透明性を担保し、専用ライセンスをインストールしたソニー製のカメラで撮影された画像にハードウェアベースのカメラ内電子署名を付与することで、高いレベルで信憑性を検証できる。さらに、カメラからの 3D 深度情報を含む独自のメタ情報を使用することで、撮影された画像が実際の 3D の物体であるかを、より高精度に検証することが可能。

^{*1} C2PA とは、公開者、作成者、消費者がさまざまな種類のメディアの出どころと来歴を追跡できるようにするオープンな技術標準で、デジタルデータの作成や編集に関わる情報の透明性を確保するための仕組みとして規格化されている。